

# 2020年度通期決算報告書

プレスリリース  
2021年2月5日、パリ発



**2020年度：BNPパリバの多角的かつ統合的なビジネスモデルの有効性と盤石性が健康危機下で発現**

**経営資源と専門知識を結集し、経済と社会に貢献**

融資残高：**+330億ユーロ**（前年度比**+4.4%**）

政府保証融資を**12万件以上**実行<sup>1</sup>

お客様のため、シンジケートローン、債券市場、株式市場で**3,960億ユーロ**を調達<sup>2</sup>

**営業収益は安定的**

営業収益：前年度比 **-0.7%**

（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+1.3%**）

**デジタル・事業変革の成功により、営業費用が低減**

営業費用：前年度比 **-3.6%**

（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**-2.7%**）

**健康危機の影響を受け、リスク費用は増加**

**66 bp<sup>3</sup>**

正常債権（ステージ1と2）の引当**14億ユーロ**（**16bp**）を含む

**純利益<sup>4</sup>は底堅い**

純利益<sup>4</sup>：**70億6,700万ユーロ**（前年度比**-13.5%**）

**バランスシートは極めて盤石**

普通株式等Tier 1比率：**12.8%**

（2019年12月末比**+70 bp**）

1. BNPパリバ・グループのリテール・バンキングが2020年12月末時点で供与； 2. 出所：Dealogic社、2020年12月末時点、ブックランナー、配賦額； 3. リスク費用+顧客向け融資期首残高（単位：パーセントポイント）； 4. 親会社株主帰属純利益



**BNP PARIBAS**

The bank  
for a changing  
world



BNPパリバの取締役会が2021年2月4日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2020年度第4四半期の業績が検討され、2020年度の財務諸表が承認されました。

今回の決算を踏まえ、ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に以下のように述べました。

*「いま世界は未曾有の規模・期間の健康危機の最中にあります。我々は試されており、我々の社会のあらゆる要素が試されています。そして、団結や包摂といった価値の重要性を我々に再認識させています。」*

2020年から今日に至るまで、我々の最大の関心事はお客様が健康危機の影響に対処できるよう支援することであり、社員の健康を守ることです。我々の各チームが通年にわたって迅速に適応してきたことに謝意を表します。BNPパリバはあらゆる経営資源を結集し、お客様が現下の危機を乗り越え、着実に持続可能な景気回復の基盤を構築できるよう支援しています。

BNPパリバは多角的かつ統合的なビジネスモデル、盤石な財務基盤、デジタル・事業変革、独自の取引プラットフォーム上の執行能力を備え、高いレジリエンス（強靱性）を体現しています。我々はこうした強みを武器に、事業活動の推進で新局面に入る好位置にあります」

\*  
\*\*

## 経済に資する結集力

2020年は世界の国々の多くが新型コロナウイルスのパンデミックに対応し、国民を保護し感染拡大を鈍らせるため、公衆衛生措置を講じました。健康危機は経済的・社会的に甚大な影響を及ぼしています。

こうした状況下、BNPパリバは経済の機能維持に不可欠なサービスを全面的に提供しつつ社員の健康も守るべく、様々な方策を採り入れています。

また、BNPパリバはこの厳しい時期にその経営資源と専門知識をすべて結集し、個人・法人・機関投資家のお客様を支援し、この健康危機の多様な局面で生じる特定の経済的ニーズにお応えしています。

融資残高は前年度比で330億ユーロ、4.4%増加しました。当グループはリテール・バンキング支店網で2020年度に12万件以上の政府保証融資を実行し、お客様のためにシンジケートローン・債券・株式市場で3,960億ユーロ以上の資金を調達しました<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 出所：Dealogic社、2020年12月末時点、ブックランナー、配賦額



## 健康危機の状況下で底堅い決算を実現—ジョーズ効果はポジティブ

当グループ全体の当年度の営業収益は442億7,500万ユーロでした。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比ほぼ横ばい (-0.7%)、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同1.3%の増収でした<sup>1</sup>。

事業部門の当年度の営業収益は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると小幅増 (+0.2%)、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと比較的大幅な増収でした (+2.0%)。国内市場部門<sup>2</sup>では、専門的金融業務（特に個人投資家部門）が極めて好調だったものの、長引く低金利環境や健康危機がリテール・バンキング支店網に与えたマイナス影響を一部相殺するに留まり、2.1%の減収でした。国際金融サービス部門では、バンクウエストの好調をもってしても健康危機の影響を補い切れず、営業収益は7.2%減<sup>3</sup>でした。ホールセールバンキング（CIB）部門では、業務部門が全て増収を記録し、前年度比13.9%増<sup>4</sup>の力強い伸びを達成しました。

営業費用は、デジタル・事業変革の成功が寄与し、グループ全体で301億9,400万ユーロと前年度比3.6%減少し、2020年度事業計画の目標に即した成果を収めました。この営業費用には、一時項目として、事業再編費用<sup>5</sup>と事業適応費用<sup>6</sup>が2億1,100万ユーロ（前年度は4億7,300万ユーロ）、IT強化費用1億7,800万ユーロ、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用1億3,200万ユーロが合計5億2,100万ユーロ含まれています（前年度は12億1,700万ユーロ）。発表していた通り、一時項目の事業変革費用はゼロでした（前年度は7億4,400万ユーロ）。

事業部門の営業費用は前年度比1.0%減でした。国内市場部門<sup>2</sup>では1.6%減で、特にリテール・バンキング業務における減少が比較的顕著で (-2.7%)、専門的金融業務における増加を相殺し、正のジョーズ効果を達成しました (+4.3ポイント)。国際金融サービス部門の営業費用は、健康危機を契機にさらに力を入れたコスト節減策が奏功し、3.7%減<sup>8</sup>でした。CIB部門の営業費用は3.0%増で、事業の伸びに伴って膨らみましたが、コスト節減策によって抑制され、高水準のジョーズ効果を生み出しました (+10.9ポイント)。

当グループは、デジタル・事業変革の効果を立証し、厳格なコスト抑制も行い、2.9ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました（事業部門は+1.2ポイント）。

営業総利益はグループ全体で当年度に140億8,100万ユーロとなり、前年度比6.2%の増益でした。

リスク費用は57億1,700万ユーロ、前年度に比べて25億1,400万ユーロの増加でした。この額は顧客向け融資残高の66bp相当で、正常債権（ステージ1と2）の引当関連の16bp（14億ユーロ）が含まれています。

これらを受けて、当グループの当年度の営業利益は83億6,400万ユーロとなり、前年度比16.8%の減益でした。

営業外項目は当年度に14億5,800万ユーロの利益となり、前年度の13億3,700万ユーロの利益を上回りました。当年度の営業外項目には、建物売却による譲渡益 (+6億9,900万ユーロ)、Allfunds社との戦略的合意に関するキャピタルゲイン (+3億7,100万ユーロ)、持分法投資の価値減少 (-1億3,000万ユーロ) が含まれています。なお、前年度の営業外項目には、いずれも一時項目として、インドのSBI Life株16.8%の売却による譲渡益および残部<sup>9</sup>の連結範囲からの除外 (+14億5,000万ユーロ)、建物売却による譲渡益 (+1億100万ユーロ)、のれんの減損損失 (-8億1,800万ユーロ) が反映されていました。

<sup>1</sup> 2020年度の営業収益は、事業活動の移管のために設定したスワップによる一時的な会計上の影響-1億400万ユーロを含む。

<sup>2</sup> 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

<sup>3</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.6%

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+16.2%

<sup>5</sup> 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の再編に関連

<sup>6</sup> 特にバンクウエストとCIB部門に関する適応策

<sup>7</sup> フランス国内リテール・バンキング、BNLバンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

<sup>8</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.6%

<sup>9</sup> SBI Life株の残りの5.2%持分

当年度の税引前利益は、グループ全体で98億2,200万ユーロでした。前年度（113億9,400万ユーロ）に比べ、13.8%の減益です。

法人税はグループ全体で24億700万ユーロ、法人税率は平均で25.6%でした（前年度は24.2%）。国際財務報告基準解釈指針委員会（IFRIC）第21号「賦課金」（以下「IFRIC21」）に基づく税金は13億2,300万ユーロで、前年度に比べて1億5,800万ユーロ増加しました。

以上から、当グループの株主帰属純利益は当年度に70億6,700万ユーロとなり、前年度比13.5%の減益でした。なお、一時項目による影響を除くと68億300万ユーロ、19.2%の減益でした。

有形自己資本利益率（ROTE、再評価前<sup>1</sup>）は当年度に7.6%となり、今回の決算のレジリエンス（強靱性）を反映しました。健康危機の厳しい状況下でも、当グループの多角的かつ統合的なビジネスモデルの強味が貢献しました。

普通株式等Tier 1比率は、2020年12月末現在12.8%で、2019年12月末比で70bp上昇しました。グループの即時利用可能な余剰資金は4,320億ユーロに上っており、これは短期資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味します。レバレッジ比率<sup>2</sup>は、ユーロ中央銀行制度（ユーロシステム）への預金関連の一時的免除を考慮後で4.9%でした（この影響を除くと4.4%）。

1株当たり有形純資産額<sup>3</sup>は2020年12月末現在で73.2ユーロに達し、2008年12月末からの年平均成長率は7.2%に相当し、当グループが景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。

取締役会は、株主総会において株主に対し1株当たり1.11ユーロの現金配当を2021年5月に行うことを提案する予定です<sup>4</sup>。これは2020年度の純利益の21%に相当し、欧州中央銀行（ECB）が2020年12月15日に出した配当抑制勧告<sup>5</sup>に基づく上限額です。ECBが勧告を撤回し次第、2021年9月末ののち、2020年度の純利益の29%を自社株買い<sup>6</sup>や配当金<sup>7</sup>の形で株主に追加的に還元することが計画されています。ECBの勧告撤回は「著しく厳しい状況がない場合（in the absence of materially adverse developments）」、2021年9月末までに行われるとみられます。

当グループは意欲的な社会的責任方針の推進を変革プロジェクトを通じて行っており、2021年まで継続する方針です。特に、ESGリスク<sup>8</sup>への対応の強化、融資先企業のCO2排出をパリ協定遵守に導くツールの実現、国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に大きく貢献しているテーマに役立つ結集を進めています。当グループのこの分野における活動は認められており、英国のESG投資推進NGO・ShareActionはBNPパリバを「気候関連リスクおよび機会の管理に関して欧州銀行で第1位」と位置づけ、ユーロマネー誌はBNPパリバのマイクロファイナンスに対する支援や包摂的（インクルーシブ）な商品・サービスを評価し「World's Best Bank for Financial Inclusion」に選出しています。

当グループは内部統制体制の強化を続けました。

<sup>1</sup> 2019年度の剰余金に計上した利益を含む

<sup>2</sup> 欧州委員会規則第2020/873号（第500b条）に基づき算定した比率

<sup>3</sup> 再評価後。2019年度の剰余金に計上した利益を含む。

<sup>4</sup> 2021年5月18日に開催される年次株主総会の承認を要する：2021年5月24日に配当落ち、2021年5月26日に配当金支払いの見通し

<sup>5</sup> ECBは声明で、ユーロ圏の金融機関の配当金支払いと自社株買いについて、2021年9月30日まで「2019-20年の累計利益の15%以下、普通株式等Tier1比率の20bp以下になることを期待している」とした。

<sup>6</sup> 欧州中央銀行（ECB）による承認を要する

<sup>7</sup> 欧州中央銀行（ECB）と年次株主総会の承認を要する

<sup>8</sup> 環境・社会・ガバナンスリスク



2020年度第4四半期において、当グループの営業収益は108億2,700万ユーロ、前年同期比4.5%の減収<sup>1</sup>でした。

事業部門の営業収益は前年同期比2.7%減<sup>2</sup>でした。国内市場部門<sup>3</sup>では、長引く低金利環境や健康危機がマイナス影響を及ぼし、融資残高の増加や専門的金融業務（特にドイツのConsorsbank）の伸び継続による増収効果では補い切れず、1.5%の減収でした。国際金融サービス部門では、アセット・マネジメント部門は好調だったものの、健康危機や低金利環境が他の事業に及ぼした影響による減収を相殺できず、10.8%減<sup>4</sup>でした。CIB部門では、事業が全て増収を記録し、6.9%増を果たしました<sup>5</sup>。

営業費用は、グループ全体で75億6,200万ユーロと前年同期比5.9%減少しました。この中には、一時項目として、事業再編費用<sup>6</sup>と事業適応費用<sup>7</sup>（9,100万ユーロ）、IT強化費用（5,900万ユーロ）、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（2,400万ユーロ）が合計1億7,500万ユーロ含まれています（前年同期は4億2,000万ユーロ）。発表していた通り、一時項目の事業変革費用はゼロでした（前年同期は1億7,500万ユーロ）。

事業部門の営業費用は前年同期比3.0%減でした。国内市場部門<sup>3</sup>は、リテール・バンキング業務<sup>8</sup>で比較的顕著に減少（-2.2%）したことが奏功し、専門的金融業務の伸びに伴う小幅なコスト増を補い、全体では1.0%減少しました。国際金融サービス部門では、健康危機を契機に強化したコスト節減の進展により5.9%減少<sup>9</sup>、CIB部門では確かなコスト管理に伴って1.8%減少しました。

ジョーズ効果は正でした（+1.4ポイント）。2020年度事業計画に則ったコスト節減策の実施・拡大が寄与しました。

これらを受けて、営業総利益はグループ全体で32億6,500万ユーロとなり、前年同期（33億100万ユーロ）に比べて1.1%の減益でした。事業部門の営業総利益は同2.2%減でした。

リスク費用は15億9,900万ユーロで（顧客向け融資残高の74bp相当）、前年同期比6億3,300万ユーロ増加しました。費用増は特に正常債権（ステージ1と2）の引当の影響を反映しています。

当四半期の営業利益は、グループ全体で16億6,600万ユーロとなり、前年同期（23億3,500万ユーロ）と比べ28.6%減でした。事業部門の営業利益は同25.3%減でした。

営業外項目は当四半期に5億6,400万ユーロの利益となり、前年同期（1億9,400万ユーロの利益）を上回りました。当四半期の営業外項目には、複数の建物売却による譲渡益（+1億9,300万ユーロ）、Allfunds社との戦略的合意に関する売却によるキャピタルゲイン（+3億7,100万ユーロ）、持分法投資の価値減少（-1億3,000万ユーロ）が含まれています。なお、前年同期の営業外項目には、建物売却による譲渡益（+1億100万ユーロ）が反映されていました。

<sup>1</sup> 事業活動の移管のために設定したスワップによる一時的な会計上の影響-1億400万ユーロを含む

<sup>2</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.3%

<sup>3</sup> 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-6.1%

<sup>5</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>6</sup> 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の再編に関連

<sup>7</sup> 特にバンクウェストとCIB部門に関連

<sup>8</sup> フランス国内リテール・バンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

<sup>9</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.4%



以上から、当四半期の税引前利益はグループ全体で22億3,000万ユーロとなり、前年同期（25億2,900万ユーロ）と比べて11.8%の減益でした。また、株主帰属純利益は15億9,200万ユーロで、前年同期比13.9%の減益でした（一時項目を除くと-31.8%）。

## リテール・バンキング&サービス事業

### 国内市場部門

2020年度通期において、また、健康危機の状況下において、国内市場部門の事業活動は経済に力強い下支えを提供すると共に、業務効率の改善を達成しました。同部門はお客様の支援のため通期にわたって結集し、特に政府保証融資をフランスやイタリアを中心に行いました。融資残高は前年度比5.4%増え、業務全てで増加を記録し、企業・個人顧客向けローン組成の伸びは高く、特に住宅ローンが好調でした。預金残高は健康危機の影響により前年度比11.6%増加しました。プライベート・バンキング業務では力強い資金純流入が見られ（61億ユーロ）、このうち欧州域外からの資金流入が49億ユーロを占めました。

デジタルツールの利用は加速を続け、モバイルアプリをアクティブに利用する顧客<sup>1</sup>は610万人を超え、接続回数は前年同期比41.5%増加し1日当たり460万回近傍に上っています。同部門はデジタルサービスの提供を急速に拡大し、Nickelの口座開設数は27%増え、電子ポートフォリオLyf Payの顧客数は1年で30%増加しました。

顧客対応の進化や革新的デジタルソリューションの配備は、顧客サービスの改善に寄与し、支店設置の改良に貢献しました（フランス、ベルギー、イタリアでは2016年末から618支店を閉鎖しています）。

営業収益<sup>2</sup>は、当年度に154億7,700万ユーロとなり、前年度比2.1%の減収でした。低金利環境がリテール・バンキング業務にマイナス影響を及ぼし、融資残高の増加による増収効果では補い切れませんでした。専門的金融業務は好調でした（特に個人投資家部門。ドイツのConsorsbankの伸びが力強く、前年度比36.0%増）。

営業費用<sup>2</sup>は、当年度に105億6,800万ユーロとなり、前年度比1.6%減少しました。リテール・バンキング業務<sup>3</sup>で比較的顕著に減少（-2.7%）したことが奏功し、専門的金融業務の伸びに伴うコスト増（+3.4%）を補いました。

これらを受けて、営業総利益<sup>2</sup>は当年度に49億900万ユーロとなり、前年度比3.2%の減益でした。

リスク費用<sup>2</sup>は、健康危機の余波を受け、14億5,600万ユーロに膨らみました（前年度は10億2,100万ユーロ）。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益<sup>4</sup>は当年度に32億7,100万ユーロとなり、前年度比13.9%減でした。

2020年度第4四半期において、国内市場部門の営業収益<sup>2</sup>は39億7,600万ユーロで、前年同期比1.5%の減収でした。低金利環境と健康危機の影響が響き、融資残高の増加や専門的金融業務の伸び（特に個人投資家部門。ドイツのConsorsbankは大幅に伸び、前年同期比39.0%増）による増収効果でも補えませんでした。営業費

<sup>1</sup> モバイルアプリに月1回以上接続した顧客（2020年度第4四半期の平均）。範囲は国内市場部門のリテール・バンキング支店またはデジタルバンクの個人顧客、中小企業顧客、プライベート・バンキング顧客（ドイツ、オーストリア、Nickelを含む）。

<sup>2</sup> フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>3</sup> フランス国内リテール・バンキング、BNLパンカ・コメルシアーレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

<sup>4</sup> PEL/CELの影響を除く：2020年度は+300万ユーロ；2019年度は+1,200万ユーロ



用<sup>1</sup>は26億1,000万ユーロ、前年同期比1.0%減でした。特にリテール・バンキング業務<sup>2</sup>の費用減が比較的顕著で(-2.2%)、専門的金融業務では事業の伸びに伴ってコスト増が生じました。これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は13億6,600万ユーロ、前年同期比2.5%の減益でした。リスク費用<sup>1</sup>は4億5,800万ユーロで(前年同期は2億5,400万ユーロ)、特に正常債権(ステージ1と2)の引当の影響を反映しています。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務(国際金融サービス部門)へ配分した後、国内市場部門の税引前利益<sup>3</sup>は当四半期に8億9,000万ユーロとなり、前年同期比18.6%減でした。

## フランス国内リテール・バンキング (FRB)

2020年度通期において、FRBはお客様の支援に向けて力強く結集しました。政府保証融資を2020年12月末時点で6万9千件以上、総額179億ユーロ近く実施しています。また、フランスの中小企業の発展を支えるべく株式投資の2024年までの余地を40億ユーロに倍増しました。

このため、FRBの事業活動は健康危機にもかかわらず高水準でした。事業の推進力は堅調でした。融資残高は前年度比8.8%増でした。個人顧客向け貸出が増え(住宅ローンの組成が加速、利鞘も拡大)、法人向け貸出の増加も寄与しました。預金残高は健康危機の影響により前年度比16.5%増でした。金融預金(financial savings)が増え、特にプライベート・バンキングに15億ユーロの資金が純流入し、責任預金(responsible savings)の伸びは高水準を維持し、2020年12月末の残高は82億ユーロでした(2019年12月末比で倍増)。

デジタルツールの利用は急拡大を続け、モバイルアプリをアクティブに使用する顧客<sup>4</sup>は280万人に達しました(2019年12月末比+18%)。リモート接客では個人・中小企業のお客様が急増し、予約数の75%以上を占めました。

営業収益<sup>1</sup>は当年度に59億4,400万ユーロとなり、前年度比6.1%の減収でした。純利息収入<sup>1</sup>は、低金利環境のマイナス影響に加え、専門的金融業務を手掛ける子会社からの寄与が低下し、融資残高の増加による増収効果では補えず、下半期の回復にもかかわらず8.0%減でした。手数料収入<sup>1</sup>は3.5%減でした。金融手数料は増加しましたが、健康危機が他の手数料に及ぼした影響が響きました。

営業費用<sup>1</sup>は、推進中のコスト最適化策が奏功し、44億9,000万ユーロと前年度比2.4%減でした。

これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は当年度に14億5,400万ユーロとなり、前年度比15.8%減でした。

リスク費用<sup>1</sup>は、当年度は4億9,600万ユーロでした。前年度比の増加抑制を反映し(+1億6,700万ユーロ)、顧客向け融資残高の25bp相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務(国際金融サービス部門)へ配分した後、FRBの税引前利益<sup>5</sup>は当年度に8億6,200万ユーロとなり、前年度比31.6%の減益でした。

<sup>1</sup> フランス(PEL/CELの影響を除く)、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> フランス国内リテール・バンキング、BNLバンカ・コメルシアレ(BNL bc)、ベルギー国内リテール・バンキング

<sup>3</sup> PEL/CELの影響を除く：2020年度第4四半期はゼロ；2019年度第4四半期は-900万ユーロ

<sup>4</sup> 個人顧客(Hello bank!を含む)、中小企業顧客、プライベート・バンキング顧客で、モバイルアプリに月1回以上接続した顧客(2020年度第4四半期の平均)

<sup>5</sup> PEL/CELの影響を除く：2020年度は+300万ユーロ；2019年度は+1,200万ユーロ

2020年度第4四半期において、FRBの営業収益<sup>1</sup>は15億1,600万ユーロとなり、前年同期比3.4%減でした。純利息収入<sup>1</sup>は3.8%減でした。利鞘の拡大と融資残高の増加（特に住宅ローン）に加え、専門的金融業務を手掛ける子会社の年度終盤の業績回復も寄与しましたが、低金利環境のマイナス影響が響きました。手数料収入<sup>1</sup>は2.8%減でした。金融手数料は増加したものの、健康危機の影響を完全には補えませんでした。営業費用<sup>1</sup>は11億2,600万ユーロで、推進中のコスト最適化策が奏功し、前年同期比2.3%減でした。これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は3億9,000万ユーロとなり、前年同期に比べ6.4%減少しました。リスク費用<sup>1</sup>は1億6,900万ユーロで、特定の債権の影響により前年同期比で7,000万ユーロ増加し、顧客向け融資残高の32bp相当でした。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益は当四半期に2億2,500万ユーロ<sup>2</sup>となり、前年同期比23.0%の減益でした。

### BNLバンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

2020年度通期において、BNL bcはお客様の健康危機への対処を支援すべく力強く結集しました。2020年12月末時点で、イタリア政府やイタリア外国貿易保険（SACE）<sup>3</sup>が保証する融資を26,000社以上に提供し、総額は41億ユーロに達しました。

健康危機の状況下、BNL bcの事業活動は上向き続けました。融資残高は前年度比1.0%増え<sup>4</sup>、不良債権を除くと5%増加しました。BNL bcは法人顧客の市場シェアを前年度に比べて高めつつ、堅実なリスクプロファイルも維持しています。預金残高は前年度比15.6%増でした。プライベート・バンキング業務では、10億ユーロ近い資金純流入を年度内に達成し、貯蓄型生命保険の伸びは2019年12月末比4.5%増でした。

また、デジタルツールの利用は増え続けており、モバイルアプリをアクティブに利用する顧客<sup>5</sup>は80万人超に上っています（2019年12月末比+12.4%）。

営業収益<sup>6</sup>はこうした状況にもかかわらず当年度は26億7,100万ユーロ、前年度比3.8%減でした。前年度には非経常的項目による好作用が含まれていました。純利息収入<sup>6</sup>は4.2%減でした。低金利環境によるマイナス影響によるもので、融資残高の増加によるプラス効果は一部相殺に留まりました。手数料収入<sup>6</sup>は、健康危機の影響に加え、取引件数の減少に伴う金融手数料の落ち込みもあり、前年度比3.2%の減収でした。

営業費用<sup>6</sup>は当年度は17億4,600万ユーロと前年度比3.0%減少しました。この費用減はコスト節減策や事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）の効果を反映しており、前年度の非経常的項目による好作用の影響を除くと高いジョーズ効果を生み出しました。

これらを受けて、営業総利益<sup>6</sup>は当年度に9億2,500万ユーロとなり、前年度比5.4%減でした。

リスク費用<sup>6</sup>は5億2,500万ユーロ（顧客向け融資残高の69bp相当）、前年度比7.2%増でした。費用増は正常債権（ステージ1と2）の引当を反映していますが、不良債権（ステージ3）のリスク費用は減少し続けています。

<sup>1</sup> フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

<sup>2</sup> PEL/CELの影響を除く：2020年度第4四半期はゼロ；2019年度第4四半期は-900万ユーロ

<sup>3</sup> イタリア外国貿易保険（SACE）：イタリア政府が全額出資する輸出信用保険機関

<sup>4</sup> 融資残高は日次平均残高

<sup>5</sup> モバイルアプリに月1回以上接続した顧客（2020年度第4四半期の平均）、範囲：個人顧客、中小企業顧客、プライベート・バンキング顧客（BNPパリバとHello bank!を含む）

<sup>6</sup> イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む





以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当年度に3億6,300万ユーロとなり、前年度比18.0%減でした。

2020年度第4四半期において、BNL bcの営業収益<sup>1</sup>は6億9,400万ユーロ、前年同期比8.1%の減収でした。純利息収入<sup>1</sup>は、前年同期の非経常的項目による好作用の反動、低金利環境のマイナス影響、より有利なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトにより、融資残高の増加による増収効果では補えず、11.5%減でした。手数料収入<sup>1</sup>は健康危機の影響と金融手数料の減少が響き、コーポレートバンキング業務の活動継続では一部相殺に留まり、前年同期比2.4%の減収でした。営業費用<sup>1</sup>は4億3,400万ユーロ、前年同期比3.6%減でした。この費用減はコスト節減策や事業適応策（例えばイタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）の効果を反映していますが、イタリアの預金保険制度に対する拠出増で軽減されました。ジョーズ効果は高水準でした（前年同期の非経常的項目による好作用の影響を除いた場合）。これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は2億6,000万ユーロ、前年同期比14.6%減でした。リスク費用<sup>1</sup>は1億6,100万ユーロ（顧客向け融資残高の82bp相当）で、正常債権の引当増の影響を反映し前年同期から5,200万ユーロ増加しました。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当四半期に9,000万ユーロとなり、前年同期比50.4%減でした。

## ベルギー国内リテール・バンキング (BRB)

2020年度通期において、BRBの事業活動に拍車がかかりました。融資残高は主に住宅ローンの高い伸びが寄与し、2019年12月末比3.5%増加しました。預金残高は個人預金の力強い伸びに支えられ、5.3%増でした。オフバランス貯蓄商品は、特にミューチュアルファンドへの高水準の資金純流入（+16億ユーロ）が寄与し、2019年12月末比で4.1%増加しています。

また、デジタルツールの利用は加速を続け、モバイルアプリをアクティブに利用する顧客<sup>2</sup>は150万人を上回り（2019年度第4四半期比+12.2%）、接続回数は当四半期に月平均4,500万回を超えました（同+32.9%）。

営業収益<sup>3</sup>は、当年度に34億3,200万ユーロとなり、前年度比2.6%減でした。純利息収入<sup>3</sup>は、低金利環境のマイナス影響を融資の伸びによるプラス効果では補い切れず、前年度比6.3%減少しました。手数料収入<sup>3</sup>は、金融手数料の伸びが極めて堅調で、前年度比8.0%の増収を果たしました。

営業費用<sup>3</sup>は、コスト節減策のほか、支店網の最適化策の継続も奏功し、当年度は24億800万ユーロと前年度比2.9%減でした。正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、営業総利益<sup>3</sup>は当年度に10億2,400万ユーロとなり、前年度比1.9%減でした。

リスク費用<sup>3</sup>は前年度の5,500万ユーロから当年度は2億3,000万ユーロに増え、顧客向け融資残高の19bp相当でした。費用増は特に正常債権（ステージ1と2）の引当増を反映しています。

<sup>1</sup> イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> 個人顧客（Hello bank!を含む）、中小企業顧客、プライベート・バンキング顧客で、モバイルアプリに月1回以上接続した顧客（2020年度第4四半期の平均）

<sup>3</sup> ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む



以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当年度に7億6,200万ユーロとなり、前年度比18.0減でした。

2020年度第4四半期において、BRBの営業収益<sup>1</sup>は8億6,100万ユーロ、前年同期比1.9%の減収でした。純利息収入<sup>1</sup>は、低金利環境のマイナス影響を融資残高の増加によるプラス効果では補い切れず、前年同期比5.9%減でした。手数料収入<sup>1</sup>は、特に金融手数料の大幅増が寄与し、前年同期比8.9%の増収でした。営業費用<sup>1</sup>、コスト節減策に加え、支店網の最適化策の継続も奏功し、5億5,600万ユーロと前年同期比0.7%減でした。これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は3億500万ユーロとなり、前年同期比4.0%減でした。リスク費用<sup>1</sup>は6,700万ユーロでした（前年同期は500万ユーロ）。この費用増の要因はほぼ全て正常債権（ステージ1と2）の引当でした。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当四半期に2億3,000万ユーロとなり、前年同期比24.0%減でした。

### その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング）

2020年度通期において、国内市場部門の専門的金融業務では全体的に事業活動の力強い伸びを達成しました。アルバルのファイナンスフリート<sup>2</sup>の契約台数は当年度に前年度比7.3%増え、中古車価格は堅調さを維持しました。アルバルはデジタル変革を継続し、エネルギーミックスを転換し、新たな提携契約の締結を相次いで行っています（SixtやCdiscount）。リーシング・ソリューションズではファイナンスリース残高が前年度比1.9%増加し<sup>3</sup>、また、2020年のLeasing Life Awardsにおいて5度目となる「European Lessor of the Year」を受賞しました。個人投資家部門は市場の活発な動きを背景に好調で、取引注文数は前年度比で倍増し、運用資産の伸びも特にドイツを中心に堅調でした（2019年12月末比+14.6%）。Nickelは躍進を続け、口座開設数は190万口座に迫りました<sup>4</sup>（2019年12月末比+27.0%）。当年度はNickelをスペインで円滑に稼働させた年ともなりました（2020年12月）。ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）では、当年度に貸出が力強く伸び（2019年12月末比+8.2%）、顧客セグメント全てで大幅増を記録しました。

これら5つの業務部門合計の営業収益<sup>5</sup>は当年度に34億3,000万ユーロに上り、前年度比7.7%増加しました。営業収益の伸びが極めて堅調だった個人投資家部門（前年度比+36%）とNickelは全業務部門の好成果を牽引し、また、LRBの営業収益も融資額の伸びに伴って大幅に増加しました。

営業費用<sup>5</sup>は事業開発の費用が嵩んだ結果、19億2,300万ユーロと前年度比3.4%増加しました。ジョーズ効果は正でした（+4.3ポイント）。

リスク費用<sup>5</sup>は当年度は合計2億500万ユーロでした（前年度は1億4,600万ユーロ）。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当年度に12億8,400万ユーロに達し、前年度比10.2%の大幅増益を果たしました。

<sup>1</sup> ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> 平均フリート台数（千台）

<sup>3</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除き、子会社の移管を除く（移管を含めると-1.6%）

<sup>4</sup> 設定来

<sup>5</sup> ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む



2020年度第4四半期において、5つの業務部門の営業収益<sup>1</sup>は9億500万ユーロで、全体として前年同期比8.5%の増収でした。営業収益の増加は特に個人投資家部門で力強く（+39.0%）、LRBでも伸びは大幅でした。営業費用<sup>1</sup>は、成長モメンタムの結果、前年同期比4.6%増の4億9,400万ユーロで、ジョーズ効果は正でした（+3.9ポイント）。リスク費用<sup>1</sup>は総額6,100万ユーロでした（前年同期は4,200万ユーロ）。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当四半期に3億4,500万ユーロとなり、前年同期比8.7%の増益を果たしました。

\*  
\*\*

## 国際金融サービス部門

2020年度通期において、国際金融サービス部門は健康危機をよそに高水準の事業活動を維持し、業務効率の改善も達成しました。融資残高は前年度比1.5%増加し<sup>2</sup>、特に国際リテール・バンキング業務の事業モメンタムは強く（融資残高2.2%増<sup>2</sup>）、また、パーソナル・ファイナンスの残高は当年度第3四半期の底から回復に転じました。当部門への資金純流入は極めて堅調で、2019年12月末比で549億ユーロ増でした。この中にはアセット・マネジメント部門の400億ユーロが含まれており（運用資産の3.4%）、市場が「上半期は下落、下半期は上昇」と対照的な環境になる中で増加しました。一方、不動産管理部門は健康危機の打撃を大きく受けましたが、徐々に復調しています。

国際金融サービス部門はデジタル化の推進を続けています。国際リテール・バンキング業務ではデジタル顧客が460万人に上り（2019年12月末比+13%）、融資契約のうち500万件以上で電子署名が行われ、また、パーソナル・ファイナンス業務では1億2,800万通を超える電子口座取引月次明細書が顧客に送信されています。

国際金融サービス部門の当年度の営業収益は159億3,800万ユーロ、前年度比7.2%減<sup>3</sup>でした。バンクウエストは好調でしたが、健康危機の影響を被った他事業の減収を補えませんでした。

営業費用は、健康危機を契機に強化したコスト節減の取り組み継続が奏功し、当年度は101億1,700万ユーロ、前年度比3.7%減<sup>4</sup>でした。

これらを受けて、営業総利益は当年度は58億2,100万ユーロ、前年度比12.8%減でした。

リスク費用は27億7,500万ユーロで、前年度に比べて8億6,400万ユーロ増加しました。特に正常債権（ステージ1と2）の引当が膨らみました。

以上から、国際金融サービス部門の当年度の税引前利益は34億2,100万ユーロでした。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比34.5%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同32.6%減でした。

<sup>1</sup> ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>3</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.6%

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.6%

2020年度第4四半期において、国際金融サービス部門の営業収益は39億1,500万ユーロ、前年同期比10.8%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-6.1%）。この結果は健康危機と低金利環境の影響により大半の事業が大幅減収に陥ったためですが、アセット・マネジメント部門とバンクウェストの営業収益は堅調でした。営業費用は、健康危機に伴ってコスト節減を継続したことが奏功し、25億5,500万ユーロと5.9%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.4%）。これらを受けて、営業総利益は13億6,000万ユーロとなり、前年同期比18.8%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-13.8%）。リスク費用は6億7,800万ユーロで、特に正常債権（ステージ1と2）の引当増により、前年同期と比べて1億400万ユーロ増加しました。以上から、国際金融サービス部門の当四半期の税引前利益は7億5,900万ユーロとなり、前年同期比36.8%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-37.3%）。

## パーソナル・ファイナンス

2020年度通期において、パーソナル・ファイナンスは多角的な事業構成を基盤にレジリエンスを裏付けました。コスト節減の取り組みを継続し、健康危機に伴ってその増強も行いました。事業活動は特に上半期には店舗閉鎖のため減少しましたが、融資残高は第3四半期の底を経て拡大に転じています。下半期の公衆衛生措置は上半期ほどローン組成に影響を及ぼさず、したがって融資残高の平均に対しても同様でした。この結果、当年度の平均融資残高は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合でも前年度比0.7%の減少に留まり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合には同0.9%増加しました。

パーソナル・ファイナンスではポートフォリオの分散化と積極的・効果的なリスク管理を行っており、リスクプロファイルに好作用を及ぼしています。パーソナル・ファイナンスのポートフォリオは地域別では欧州大陸に集中しており（2020年12月末現在89%）、債権別では自動車ローンが占める比率は2016年末～2020年末の期間に20%から38%へ上昇しています。パーソナル・ファイナンスで返済を猶予していたローンについては、お客様に対する積極的支援を通じて効果的に対処し、援助を個別に強化し返済再開水準の最適化を行いました。返済猶予期間を終えたローンの返済再開は満足のいく水準で、予想通りでした。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、当年度は54億8,500万ユーロ、前年度比5.4%減<sup>1</sup>でした。特にローン組成が落ち込んだ結果です。

営業費用は27億5,600万ユーロで、健康危機を契機に強化したコスト節減の取り組み継続が奏功し、前年度比3.5%減<sup>2</sup>でした。

これらを受けて、営業総利益は当年度に27億2,900万ユーロとなり、前年度比7.1%減でした。

リスク費用は19億9,700万ユーロとなり（融資残高の212bp相当）、特に正常債権（ステージ1と2）の引当により、前年度を6億4,200万ユーロ上回りました。債務不履行の定義<sup>3</sup>について規制が変更される影響を当年度第4四半期時点で考慮に入れていきます。

以上から、パーソナル・ファイナンスの当年度の税引前利益は6億7,200万ユーロで、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比58.1%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同53.3%減でした。

<sup>1</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-2.5%

<sup>2</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.4%

<sup>3</sup> 規制発効日：2021年1月1日





2020年度第4四半期において、パーソナル・ファイナンスの営業収益は13億6,500万ユーロとなり、前年同期比8.1%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.8%）。特に健康危機がローン組成に与えた影響が響きました。営業費用は、健康危機を契機に強化したコスト節減の取り組み継続が奏功し、6億8,700万ユーロと前年同期比4.7%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-2.3%）。これらを受けて、営業総利益は6億7,800万ユーロ、前年同期比11.3%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-7.2%）。リスク費用は、特に債務不履行の定義について規制が変更<sup>1</sup>される影響を当四半期時点で考慮に入れたことにより、前年同期比2億1,100万ユーロ増え、5億8,100万ユーロでした。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に3,300万ユーロとなり、前年同期比91.2%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-78.3%）。この中には、ネガティブな非経常的項目が他の営業外項目に当四半期に及ぼした影響が含まれています。

## 欧州・地中海沿岸諸国

2020年度通期において、欧州・地中海沿岸諸国部門は、前年度と全く異なる環境にありながら持続的な事業活動を達成しました。融資残高は前年度比3.9%増<sup>2</sup>でした。ローン組成が8月の底から下半期に回復し、月次水準が前年度を上回ったことが寄与しました。預金残高は前年度比10.9%増え<sup>2</sup>、各国とも増加しました。一方、返済猶予期間の90%以上が今や終了しており、ローンの返済再開は満足のいく水準で、予想通りでした。

欧州・地中海沿岸諸国部門ではデジタルツールの利用促進を継続しており、デジタル顧客は2020年12月末時点で370万人に上りました（2019年12月末比+15%）。2020年12月末現在、210以上のプロセスが自動化されており（2019年12月末比+89%）、ポーランドでは今やデジタル口座開設が完全自動化されています。

ただし、欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益<sup>3</sup>は、当年度は23億6,200万ユーロ、前年度比4.9%減<sup>2</sup>でした。低金利環境の影響（特にポーランド）や複数諸国の手数料上限の実施が収益を抑制し、融資残高の全体的な増加では補えませんでした。

営業費用<sup>3</sup>は、当年度は17億1,100万ユーロ、前年度比1.4%増<sup>2</sup>でした。賃金ドリフトが特にトルコで依然高水準でした。ポーランドでのコストシナジーの実現や健康危機関連のコスト節減効果は費用増の抑制に寄与しました。

これらを受けて、営業総利益<sup>3</sup>は当年度に6億5,100万ユーロとなり、前年度比18.0%減<sup>2</sup>でした。

リスク費用<sup>3</sup>は4億3,700万ユーロで（融資残高の111bp相当）、特に正常債権（ステージ1と2）の引当により前年度比小幅増でした。

以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当年度に3億9,200万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は前年度比39.3%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は為替の不利な影響（トルコリラの大幅下落）により同46.1%減でした。

2020年度第4四半期において、欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益<sup>3</sup>は5億2,700万ユーロ、前年同期比12.3%減<sup>2</sup>でした。低金利環境の影響（特にトルコとポーランド）や複数諸国の手数料上限が重石となり、融資残高の増加では補えませんでした。営業費用<sup>3</sup>は4億200万ユーロで、確かなコスト管理を反映し、前年同期比ほぼ横ばい（-0.1%<sup>2</sup>）でした。

<sup>1</sup> 規制発効日：2021年1月1日

<sup>2</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>3</sup> トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの100%を含む



当四半期のリスク費用<sup>1</sup>は9,500万ユーロ、顧客向け融資残高の102bp相当で、不良債権（ステージ3）のリスク費用の低減により前年同期（1億1,300万ユーロ）を下回りました。以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に7,800万ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は前年同期比67.4%の減益、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は関連会社からの寄与低下により同60.2%の減益でした。

## バンクウェスト

2020年度通期において、バンクウェストは高水準の事業活動を維持し、健康危機下の米国経済を下支えし続けました。融資残高は前年度比1.0%増<sup>2</sup>でした。個人向けローン組成の水準は高く（前年度比+4.3%）、また、米国連邦政府の中小企業支援策「ペイチェック・プロテクション・プログラム（PPP）」に積極的に参画しており、2020年12月末時点で18,000件近い融資、総額約30億ドルを実行しています。預金残高は前年度比16.8%増<sup>2</sup>、顧客預金<sup>3</sup>が大幅に伸びました（+18.8%）。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は2020年12月末時点で168億ドルに達し、2019年12月末比で7.0%増加し<sup>2</sup>、責任預金（responsible savings）の伸びが高水準でした（運用資産は2019年12月末から倍増）。また、アクティブなデジタル顧客数が2019年12月末比で7%増加したほか、ホールセールバンキング（CIB）部門との協働を続け、共同で実施する案件数を加速させ（70件以上、前年度比+25%）、新たな共通商品・サービスの提供を開始しています。

営業収益<sup>4</sup>は、当年度は24億6,000万ユーロ、前年度比5.2%の増収<sup>2</sup>でした。低金利環境のマイナス影響と健康危機による手数料収入減少は生じたものの、融資残高の伸びによる増収効果と第2四半期に生じた非経常的項目のプラス寄与が上回りました。

営業費用<sup>4</sup>は、事業開発のコストが嵩んだ結果、当年度は17億2,300万ユーロ、前年度比2.0%増<sup>2</sup>でした。ただし、コスト節減と人員削減（2019年12月末比-4.3%）を積極的に推進し、3.2ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合）。

これらを受けて、営業総利益<sup>4</sup>は当年度に7億3,700万ユーロとなり、前年度比13.5%の増益<sup>2</sup>でした。

リスク費用<sup>4</sup>は3億2,200万ユーロで、前年度に比べ1億7,400万ユーロの大幅増、顧客向け融資残高の58bp相当でした。費用増の要因はほぼすべて正常債権（ステージ1と2）の引当でした。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウェストの税引前利益は当年度に3億9,200万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比19.0%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同16.5%減でした。

2020年度第4四半期において、バンクウェストの営業収益<sup>4</sup>は5億9,400万ユーロ、前年同期比4.7%の増収<sup>2</sup>でした。低金利環境の影響と手数料収入の寄与低下は生じたものの、融資残高の増加と利鞘の拡大による増収効果が上回りました。営業収益の中には有利な非経常的項目が含まれています。営業費用<sup>4</sup>は、非経常的項目の影響で膨らみ、4億2,300万ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年同期比4.3%増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同12.3%増でした。これらを受けて、営業総利益<sup>4</sup>は1億7,100万ユーロ、前年同期比10.2%減<sup>2</sup>でした。リスク費用<sup>4</sup>は、特に前年同期の特定の債権2件の影響により前年同期（8,400万ユーロ）に比べて急減し、300万ユーロ（顧客向け融資残高の2bp相当）でした。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウェストの税引前利益は当四半期に1億

<sup>1</sup> トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>3</sup> 財務活動に関わる預金を除く

<sup>4</sup> 米国プライベート・バンキングの100%を含む

6,200万ユーロとなり、前年同期比58.4%の増益<sup>1</sup>を果たしました。

## 保険およびウェルス&アセット・マネジメント

2020年度通期において、保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門<sup>2</sup>は、特に下半期の旺盛な資金純流入を背景に事業活動が好調でした。運用資産残高<sup>3</sup>は2020年12月末現在1兆1,650億ユーロ、2019年12月末比3.8%増でした。この要因は、資金純流入が極めて高水準だったこと（+549億ユーロ）、有利なパフォーマンス効果が生じたこと（+188億ユーロ。金融市場が特に第4四半期に回復）、一方、為替面の影響は不利だったこと（-218億ユーロ）です。極めて高水準の資金純流入は、特にアセット・マネジメント部門で短期（マネー・マーケット）ファンドと中長期ファンド（特に分散型ファンドやテーマ型ファンド）に極めて力強い資金純流入が見られたこと（400億ユーロ）、ウェルス・マネジメント部門でアジアや欧州（特にドイツ）に高水準の資金純流入があったこと、保険部門でも特にユニットリンク保険に順調に資金純流入が見られことで牽引されました。

2020年12月末現在、運用資産残高<sup>3</sup>の部門別内訳は以下の通りでした：アセット・マネジメント部門は5,120億ユーロ（Real Estate Investment Managementの290億ユーロを含む）、ウェルス・マネジメント部門は3,900億ユーロ、保険部門は2,640億ユーロ。

保険部門は高いレジリエンスを示し、事業開発を続けました。貯蓄型保険は下半期に回復し、ユニットリンク保険にはより力強い資金純流入があり、特にフランスでシェアの向上が見られました。保障保険の販売はフランスやアジアで好調で、フランスではBNPパリバ・カーディフの保険ブランド「Cardif Libertes Emprunteur」の開発が奏功し、返済保障保険事業がさらに拡大しています。また、保険部門は新たな提携契約を結ぶことで事業の多角化も続けました（特にBrasilsegはブラジルの生保最大手でバンカシュアランスのスペシャリスト）。

保険部門の営業収益は、当年度は27億2,500万ユーロ、前年度比11.2%減でした。減収の要因は健康危機の影響です。事業活動は下半期に大きく回復しましたが、特に支払請求の増加<sup>4</sup>や販売の落ち込みが響きました。営業費用は、厳格なコスト抑制が奏功し、14億6,300万ユーロと前年度比2.5%減でした。税引前利益は13億8,200万ユーロ、前年度比19.5%減で、支払請求の増加が関連会社に及ぼした影響を反映しています。

ウェルス&アセット・マネジメント部門<sup>2</sup>では、ウェルス・マネジメント部門の事業活動が好調で、資金純流入は高水準となり、特にアジアと国内市場部門からの資金流入が旺盛でした。そのグローバルな専門知識はPrivate Banker International社から高く評価され、9年連続で「Outstanding Global Private Bank - Europe」に選出されました。アセット・マネジメント部門の事業活動は極めて良好な水準を維持し、資金純流入は約400億ユーロに上り、特にテーマ型/社会的責任投資（SRI）ファンド<sup>5</sup>への資金純流入は110億ユーロと堅調でした。アセット・マネジメント部門は特にフランスのSRI分野で力強いリーダーシップの強化を続け、新規のSRIファンド認証11件、更新5件を取得しました。一方、不動産管理部門は、アドバイザー業務の取引完了が減少し、不動産開発は公衆衛生措置のため作業完了の遅れに見舞われました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門<sup>2</sup>の営業収益は、当年度は29億8,200万ユーロ、前年度比10.2%の減収でした。ウェルス・マネジメント部門では低金利環境が純利息収入にマイナス影響を及ぼし、金融手数料の増加では補えず、アセット・マネジメント部門では力強い資金流入や下半期の市場回復にもかかわらず、年度半ばの市場下落が手数料収入を押し下げたことが響き、不動産管理部門の営業収益は公衆衛生措置による打撃を強く被りました。営業費用は、当年度は25億1,000万ユーロ、前年度比6.4%減でした。不動産管理部門の経費急減に加え、事業変革計画の効果（特にアセット・マネジメント部門）から恩恵を受けました。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当年度に5億8,300万ユーロとなり、前年度比16.1%の減益でした。

<sup>1</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>2</sup> アセット・マネジメント部門、ウェルス・マネジメント部門、不動産管理部門

<sup>3</sup> 分配金を含む

<sup>4</sup> 特に返済保障保険の支払請求が損害保険の支払請求の減少で一部相殺されたことに関連

<sup>5</sup> テーマ型/SRIファンド：中長期の認証ファンド（特にSRIファンド）



2020年度第4四半期において、保険部門の営業収益は健康危機の影響（特に支払請求の増加）が徐々に緩和したにもかかわらず6億2,200万ユーロ、前年同期比4.9%減でした。営業費用は、事業開発で嵩んだ結果、3億8,500万ユーロと1.2%増でした。以上から、保険部門の税引前利益は当四半期に2億5,300万ユーロに留まり（前年同期比16.7%減）、関連会社に対する支払請求の影響を反映しました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門<sup>1</sup>の当四半期の営業収益は8億2,600万ユーロ、前年同期比13.6%減でした。アセット・マネジメント部門の営業収益は増加しましたが、ウェルス・マネジメント部門では低金利環境のマイナス影響を金融手数料収入の増加では補えず、不動産管理部門の営業収益は健康危機の打撃を引き続き強く被りました。営業費用は6億6,900万ユーロ（前年同期比11.9%減）で、事業変革計画の効果（特にアセット・マネジメント部門）に加え、不動産管理部門の経費急減も寄与しました。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は非経常的営業外項目の寄与もあり当四半期に2億3,300万ユーロとなり、前年同期比7.9%の増益でした。

\*

\*\*

---

<sup>1</sup>アセット・マネジメント部門、ウェルス・マネジメント部門、不動産管理部門





## ホールセールバンキング (CIB)

2020年度通期において、CIB部門は顧客セグメント全てのサービスで目覚ましい業績を達成しました。

セールス/マーケティング活動はCIBの3部門全てで好調でした。当年度初期にはシンジケートローンによる資金調達が高水準に上りましたが、そのモメンタムは第2四半期の開始時には債券・株式発行へシフトし、それに伴って企業のバランスシートは強化されました。市場では顧客ニーズを背景に大量の取引が活発に行われました。上半期には著しいショックに見舞われましたが<sup>1</sup>、下半期には株式デリバティブの取引は正常化しています。証券管理部門の事業活動は高水準で、通期にわたって多数の案件を手掛けました。

この時期はCIB部門の事業活動が活発化し、顧客リレーションの強化を全地域で推進する機会となり、また、EMEA地域<sup>2</sup>における欧州のリーダーであることを確認する機会ともなりました。商業的体制の強化や地域別・国別の事業開発計画の策定では、当グループの世界的な足跡や他部門のソリューションを活用しました。地域の垣根を超える取引も米州やアジア太平洋地域で開拓しました。

CIB部門の営業収益は、当年度は137億6,300万ユーロと大幅増収を果たしました（前年度比+13.9%）。営業収益は3部門全てで増加しています。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当年度は47億2,700万ユーロ、前年度比9.6%増でした。営業収益は全地域で増え、中でも欧州が堅調でした。キャッシュマネジメントは底堅く、トレードファイナンスは健康危機のため案件減少の影響を被りました。

コーポレートバンキング部門はEMEA地域<sup>3</sup>のシンジケートローンと欧州の社債発行でトップの座を占めています<sup>4</sup>。また、EMEA地域の投資銀行業務で4位と首位の欧州プレーヤーであり<sup>5</sup>、欧州の大手企業向けコーポレートバンキング、キャッシュマネジメント、トレードファイナンスにおいても、大企業に対する着実な浸透率上昇が奏功し、第1位です<sup>6</sup>。事業の伸びは際立っています。融資残高は1,610億ユーロ<sup>7</sup>（前年度比11.2%増<sup>8</sup>）で、上半期にピークを記録後、下半期に正常化しています。預金残高は1,780億ユーロでした（前年度比26.3%増<sup>8</sup>）。エクイティキャピタル市場での取引高は急増しており（前年度比+69.9%）、コーポレートバンキング部門は取引高と案件数の両方で市場シェアを大きく伸ばしています。

グローバル・マーケット部門の当年度の営業収益は68億1,900万ユーロでした。高水準の顧客取引が続き、前年度比22.4%の急増でした。当年度のFICC<sup>9</sup>業務は、顧客ニーズを満たすため、全事業・全地域で伸びが堅調でした。株式・プライムサービス業務は、第1四半期に厳しいショックの影響を被りましたが、下半期に正常な状態に戻りました。市場リスクの尺度であるバリュアット・リスク（VaR。保有期間1日、信頼区間99%）は、平均で4,500万ユーロでした。VaRは3月下旬にピークをつけた後、下半期に低下していますが、2019年度のボトム水準を依然上回っています。

<sup>1</sup> 特に、欧州当局の2019年配当支払抑制勧告により2020年度第1四半期に-1億8,400万ユーロの影響が発生。

<sup>2</sup> 出所：Coalition Proprietary Analytics社、2020年1～9月の営業収益に基づいてランキング—EMEA：欧州、中東、アフリカ

<sup>3</sup> EMEA：欧州、中東、アフリカ

<sup>4</sup> 出所：Dealogic社、2020年12月末時点、ブックランナーのランキング（取引高ベース）—グローバル投資適格社債、欧州投資適格社債、EMEAローン、EMEAエクイティキャピタル市場；EMEA：欧州、中東、アフリカ

<sup>5</sup> 出所：Dealogic社、2020年12月末時点、収益ベースのランキング

<sup>6</sup> 出所：Greenwich Share Leaders社、2020年「European Large Corporates Trade Finance」

<sup>7</sup> 平均残高

<sup>8</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>9</sup> Fixed Income, Currencies, and Commodities（債券、通貨、コモディティ）

グローバル・マーケット部門では事業活動が引き続き好調でした。プライマリー市場で当年度に高水準の債券発行を達成し（前年度比+23%）、ユーロ建て債券の起債で首位に輝きました<sup>1</sup>。ドイツ銀行と交わした事業移管合意の実施を予定通り続けています。

FICC<sup>2</sup>業務の営業収益は当年度は56億5,200万ユーロとなり、前年度比で大幅に増加しました（+58.6%）。

株式・プライムサービス業務の営業収益は、当年度は11億6,600万ユーロ、前年度比41.9%減でした。第1四半期の厳しいショックが響きました。

証券管理部門の営業収益は、当年度は22億1,700万ユーロで、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比0.9%増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同2.3%増でした。取引手数料の増加と受託資産の回復が寄与しました。事業活動は好方向に向かいました。Allfundsと2019年度に結んだ戦略的提携は2020年度第4四半期に成立し、ファンドの販売業務で世界最大手に躍進し、また、新たに重要な提携も開始しています。プライベートキャピタルセクター向けのカストディサービスは急成長し、ルクセンブルグで首位に立ちました<sup>3</sup>。

CIB部門の営業費用は、当年度は89億2,000万ユーロとなり、前年度比3.0%増加しました。この高水準の事業活動に伴う費用増はコスト節減策の持続的な効果で抑制され、大幅な正のジョーズ効果が生み出されました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと12.5ポイント）。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当年度に48億4,300万ユーロに上り、前年度比41.7%の大幅増益となりました。

CIB部門のリスク費用は、当年度は13億800万ユーロで、前年度に比べ10億8,500万ユーロの増加でした。正常債権（ステージ1と2）の引当と特定の債権（ステージ3）の影響が響きました。

以上から、CIB部門の税引前利益は当年度に34億5,400万ユーロとなり、前年度比7.7%の増益でした。

2020年度第4四半期において、CIB部門の営業収益は33億1,500万ユーロに上り、前年同期比6.9%増でした。グローバル・マーケット部門は11.8%増収、コーポレートバンキング部門は5.9%増収、証券管理部門は小幅減収（-2.8%<sup>4</sup>）でした。CIB部門は事業活動を特に年度終盤に高水準に維持し、お客様のニーズの変化に対応しつつ支援を続けました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期は12億8,100万ユーロ、前年同期比5.9%の増収でした。業務体制の強化を継続し、高水準の事業活動を維持したことが奏功し、全地域（特にEMEA地域<sup>5</sup>）でとりわけ年度終盤の伸びが堅調でした。グローバル・マーケット部門の営業収益は14億9,800万ユーロ、前年同期比11.8%増でした。FICC<sup>2</sup>業務の営業収益は10億200万ユーロ（前年同期比+22.1%）で、顧客取引の活発さや市場シェアの向上に牽引され全事業で力強い伸びとなりました。株式・プライムサービス業務の営業収益は4億9,700万ユーロに留まりました（前年同期比-4.5%）。証券管理部門の営業収益は5億3,600万ユーロで、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年同期比2.8%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同1.8%増で、安定的な取引高や市場の回復が資産に及ぼした効果（特に米州・アジア太平洋地域）が寄与しました。

<sup>1</sup> 出所：Dealogic社、2020年12月末時点、ブックランナーのランキング（取引高ベース）

<sup>2</sup> Fixed Income, Currencies, and Commodities（債券、通貨、コモディティ）

<sup>3</sup> 出所：Monterey Insight Survey

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.8%

<sup>5</sup> EMEA：欧州、中東、アフリカ



CIB部門の営業費用は、当四半期は21億9,000万ユーロ、前年同期比1.8%減でした。事業の伸びに伴って増加しましたが、コスト節減策による抑制が奏功し、8.7ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当四半期に11億2500万ユーロに上り、前年同期比29.1%の増益でした。

CIB部門のリスク費用は4億3,200万ユーロでした（前年同期は8,000万ユーロ）。費用増の理由は特に正常債権（ステージ1と2）の引当と特定の債権2件でした。

以上から、CIB部門の税引前利益は当四半期は7億1,000万ユーロ、前年同期比11.4%減でした。

\*  
\* \*



## コーポレート・センター

2020年度通期において、コーポレート・センターの営業収益は-3億5,800万ユーロでした（前年度は7,100万ユーロ）。当年度の営業収益がマイナスに陥った要因は、健康危機によって生じたプリンシパル・インベストメントのバリュエーション低下、事業活動の移管のために設定したスワップによる会計上の影響（-1億400万ユーロ）、第3四半期に生じた非経常的項目のマイナス影響、デリバティブの信用リスク再評価（債務評価調整：DVA。-1,500万ユーロ）です。

営業費用は、当年度は8億9,000万ユーロに留まり、前年度（17億2,800万ユーロ）を大きく下回りました。当年度の営業費用の中には、一時項目として、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（1億3,200万ユーロ）、事業再編費用<sup>1</sup>と事業適応費用<sup>2</sup>（2億1,100万ユーロ。前年度は4億7,300万ユーロ）、IT強化費用（1億7,800万ユーロ）が含まれています。計画通り、事業変革費用は2020年度には計上されていません（前年度は7億4,400万ユーロ）。

リスク費用は、当年度は7,200万ユーロでした（前年度は5,800万ユーロ）。

他の営業外項目は当年度に9億3,900万ユーロの利益となりました（前年度は7億8,600万ユーロの利益）。当年度の営業外項目には、一時項目として、建物売却による譲渡益（+6億9,900万ユーロ）、Allfunds社との戦略的合意に関するキャピタルゲイン（+3億7,100万ユーロ）、持分法投資の価値減少（-1億3,000万ユーロ）が含まれています。なお、前年度の営業外項目には、いずれも一時項目として、インドのSBI Life株16.8%の売却による譲渡益および残部<sup>3</sup>の連結範囲からの除外（+14億5,000万ユーロ）、建物売却による譲渡益（+1億100万ユーロ）、のれんの減損損失（-8億1,800万ユーロ）が反映されていました。

以上から、コーポレート・センターの当年度の税引前損益は3億2,700万ユーロの損失でした（前年度は8億4,800万ユーロの損失）。

2020年度第4四半期において、コーポレート・センターの営業収益は-2億4,100万ユーロでした（前年同期は-4,500万ユーロ）。当四半期の営業収益がマイナスに陥った要因は、事業活動の移管のために設定したスワップによる会計上の影響（-1億400万ユーロ）、デリバティブの信用リスク再評価（DVA。-3,900万ユーロ）です。営業費用は2億8,300万ユーロでした。この中には、一時項目として、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（2,400万ユーロ）、事業再編費用<sup>4</sup>と事業適応費用<sup>2</sup>（9,100万ユーロ。前年同期は2億4,400万ユーロ）、IT強化費用（5,900万ユーロ）が含まれています。計画通り、事業変革費用は2020年度には計上されていません（前年同期は1億7,500万ユーロ）。

リスク費用は、当四半期は2,900万ユーロでした（前年同期は6,000万ユーロ）。

他の営業外項目は当四半期に4億2,100万ユーロの利益となりました（前年同期は6,200万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、一時項目として、建物売却による譲渡益（+1億9,300万ユーロ）、Allfunds社との戦略的合意に関するキャピタルゲイン（+3億7,100万ユーロ）、持分法投資の価値減少（-1億3,000万ユーロ）が含まれています。以上から、コーポレート・センターの税引前損益は、当四半期は1億2,900万ユーロの損失となりました（前年同期は5億5,800万ユーロの損失）。

<sup>1</sup> 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の中止・再編に関連

<sup>2</sup> 特にウェルス・マネジメント部門、バンクウェスト、CIB部門に関連

<sup>3</sup> SBI Life株の残りの5.2%持分

<sup>4</sup> 主にRaiffeisen Bank Polskaの買収により生じた事業再編費用および特定の事業（とりわけBNP Paribas Suisse）の中止・再編に関わる費用



\*  
\*\*

## 財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

普通株式等Tier 1比率は2020年12月末現在で12.8%<sup>1</sup>となり、2019年12月末の水準から70bp上昇しました。この上昇の要因は以下の通りです。

- 配当性向50%を考慮後、2020年度純利益を剰余金に計上 (+50 bp)
- リスクアセットのオーガニックな増加 (為替レート変動の影響を除く、-50 bp)
- 2019年度配当を剰余金に計上した影響 (+60 bp)
- その他の影響 (このうちソフトウェアの堅実な処理は+10 bp)

2020年12月末時点の普通株式等Tier1比率<sup>1</sup>は、欧州中央銀行 (ECB) の義務付け比率 (2020年12月末現在9.22%<sup>2</sup>) を大幅に上回り、2020年度事業計画の目標値 (12.0%) をも上回っています。

レバレッジ比率<sup>3</sup>は、ユーロシステムへの預金関連の一時的免除を考慮後で、2020年12月末現在4.9%でした (この影響を除くと4.4%)。

即時利用可能な剰余資金は2020年12月末現在で4,320億ユーロに上りました。これは資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味しています。

\*  
\*\*

<sup>1</sup> 資本要求指令4 (CRD4) ; 国際財務報告基準 (IFRS) 第9号移行条項を含む

<sup>2</sup> カウンターシクリカル・バッファ解除を考慮し、資本要求指令5 (CRD5) 第104a条に従い、第2の柱ガイダンス (P2G) を除いた比率

<sup>3</sup> 欧州委員会規則第2020/873号 (第500b条) に基づき算定された比率

## 2021年度の方向

健康危機に見舞われた2020年度を終え、2021年度下期からは経済活動の緩やかな回復が見込まれます。国際通貨基金（IMF）の予測によると、健康関連の進展を背景に成長率は全地域でプラス圏となる見通しです。一方、低金利環境は特に欧州を中心に続いており、今後もリテールバンクの利息収入に多大な打撃を与え続けるとみられます。

当グループは、この経済シナリオを取り巻く不確実性を前提とし、以下の手法で2021年度に成長を遂げていく方針です。

### 景気が回復していく中での事業活動

当グループの事業活動は最もレジリエントなセクターや顧客セグメントにおける多角化や位置取りで支えられています。当グループの今後のビジネスモメンタムを高める要因として、業務体制の強化、市場シェアの向上、部門間の連携強化に加え、デジタル・事業変革からの多大な貢献が考えられます。

こうした点を踏まえると、当グループの営業収益は公衆衛生環境の改善、経済活動の正常化に伴って増加傾向を辿ることが予想されます。ただし、事業分野・地域・セクター間のモメンタムの違いに左右される場面もあると考えられます。

国内市場部門については、景気回復の中で盤石な位置をさらに強化していく方針で、その実現のため、融資残高の拡大に加え、預金から金融預金への転換を加速させてまいります。国内市場部門は、商業的な成長モメンタムを拡大し、営業収益の伸びを支えるべく、グループ内の連携を強めて行く方向にあり、そのためコーポレートバンキング、プライベート・バンキング、専門的金融業務の顧客セグメントにおける首位の地位を活用します。特にアルバルでは事業活動を加速する方針で、2025年度の目標として、サステイナブル・モビリティで首位に立ち、200万台の車のファイナンスを行い、税引前純利益で10億ユーロを生み出すことを目指しています。また、国内市場部門はプラットフォームやサービスのデジタル化、プロセスの自動化、顧客体験の向上、業務効率の改善も続けていく方針です。このため、リテール・バンキング業務では、顧客行動の変化に合わせてコスト構造や支店設置の対応を行ってまいります。

国内市場部門は、2020年度の水準に比べ、フロービジネスの回復の追い風を受けるとみられ、また、専門的金融業務のモメンタムの高まりに伴って同業務を手掛ける子会社の復調からも恩恵を受けるとみられます。ただし、長引く低金利環境の影響がこのモメンタムを幾分抑制することも予想されます。

国際金融サービス部門については、盤石な地位を活かし、的を絞った革新的提携を進展させ、事業変革を成功させることにより、2020年度の水準に比べ、経済活動の回復から全面的に恩恵を受けるとみています。グループ企業との連携を強化し、リテール・バンキング業務、ウェルス・マネジメント部門、アセット・マネジメント部門、保険部門の成長をさらに加速させる方針です。このため、顧客預金から金融預金への転換の取り組みを拡充し、保険部門では損害保険分野への多角化を行い、アセット・マネジメント部門では組織的な事業開発を推進します。パーソナル・ファイナンスでは、健康を取り巻く状況が年度内に上向いていく中で、首位の地位を活かし、新たな業務提携を開拓することにより、ローン組成水準を2020年度に比べて向上させる方針です。今後、的を絞った社外提携を継続的に発展させ、主軸とする欧州市場における地位を強化してまいります。国際金融サービス部門は、景気が回復していく中で、簡便・斬新・拡張可能なプラットフォーム、カスタマージャーニー、商品・サービスの提供により、事業の成長を支えることができると確信しています。

国際リテール・バンキング業務の営業収益は増加が見込まれます。国際金融サービス部門は、公衆衛生措置の影響を被った事業活動の回復からも、また、預金から金融預金への転換の加速からも、通年にわたって恩恵を受けるとみられます。

ホールセールバンキング（CIB）部門については、長期にわたる顧客重視戦略が2021年度も成功を収め、欧州首位の地位を裏付けると共に、市場シェアの向上を確固たるものにしていくとみています。CIB部門では、開発モメンタムを拡大し、既に推進している取り組みを本格化していく方針です。地理的な開発は、例えば、ドイツ、英国、オランダ、北欧諸国で開始している計画を強化し、こうした計画をスペイン、スイス、イタリア（BNLバンカ・コメルシアールと協力）に広げることで増強してまいります。また、CIB部門は米州・アジア太平洋地域でのプレゼンスの拡大を続けると共に、フロービジネスやクロスボーダー取引も拡大していく意向です。今後も電子プラットフォームの開発や最適化を求める層を対象とする事業戦略の開発を継続してまいります。CIB部門は株式業務の伸びを加速し、より幅広いプライムサービスの提供を開始し、Exane BNP Paribasとの連携を強化していく方針です。

CIB部門は2021年度も業務体制の強化や市場シェアの向上から恩恵を受けるとみられます（健康危機の全局面で見られ、力強いビジネスモメンタムにつながりました）。また、株式・プライムサービス業務の営業収益に多大な打撃を与えた2020年度上半期の市場ショックによるベース効果からも恩恵を受けるとみられます。一方、FICC業務の営業収益は、2020年度には極めて高水準の顧客取引を背景に大幅増収を記録しましたが、2021年度は同様の規模にはなりがたい見通しです。

### 事業活動の回復に伴い、デジタル・事業変革の効果を立証

当グループはデジタル・事業変革の効果を2020年度に証明しました。

2020年度は健康危機の影響でデジタル変革やデジタルツール利用加速が生じ、業績に寄与しましたが、2021年度も2020年度の水準から回復する中でコスト抑制を維持し、事業開発を支えるとみられます。

このため、当グループの営業費用は、事業の回復を支えつつ、横ばいに留まる見通しです（連結範囲の変更による影響およびIFRIC 21に基づく税金を除く）。

### リスク費用

2020年度のリスク費用は顧客向け融資残高の66bp相当で、2019年度を大幅に上回りました。不良債権（ステージ3）のリスク費用は、2020年度は50bp、2019年度は40bpでした。また、正常債権（ステージ1と2）のリスク費用は2020年度は16bp、2019年度は小幅な引当金戻入益の計上でした。2020年度は健康危機の影響を見込み、正常債権の引当を14億ユーロ以上行いました。

リスク費用は2020年度がピークで、2021年度には正常化の第1段階に入ると予想されます。

実際、政府の補償措置（特にフランス）の一部は2021年度に延長されており、また、景気刺激策が公衆衛生措置によるショックの緩衝材になり、経済・社会構造を支え続けるとみられます。また、健康関連規制の緩和やワクチン接種計画の進展に伴って、経済活動は徐々に正常化に向かうと予想されます。

このため、2021年度のリスク費用は前年度比で減少し、サイクル平均に近い水準になる見通しです。



## 株主還元・自己資本管理方針

当グループの配当政策に準ずると、配当性向の目標は2021年度純利益の50%です。

当グループの2020年末の普通株式等Tier 1比率はECBの勧告水準を大きく上回り、グループの2020年度目標（12.0%）も上回っていることから、当グループの配当政策は新たな2025年度事業計画の下で再検討される見通しです。

\*

\*\*



**連結損益計算書**

	4Q20	4Q19	4Q20 / 4Q19	3Q20	4Q20 / 3Q20	2020	2019	2020 / 2019
<i>(単位：百万ユーロ)</i>								
<b>グループ</b>								
営業収益	10,827	11,333	-4.5%	10,885	-0.5%	44,275	44,597	-0.7%
営業費用および減価償却費	-7,562	-8,032	-5.9%	-7,137	+6.0%	-30,194	-31,337	-3.6%
営業総利益	3,265	3,301	-1.1%	3,748	-12.9%	14,081	13,260	+6.2%
リスク費用	-1,599	-966	+65.5%	-1,245	+28.4%	-5,717	-3,203	+78.5%
営業利益	1,666	2,335	-28.6%	2,503	-33.4%	8,364	10,057	-16.8%
持分法適用会社投資損益	68	129	-47.3%	130	-47.7%	423	586	-27.8%
その他の営業外項目	496	65	n.s.	38	n.s.	1,035	751	+37.8%
営業外項目	564	194	n.s.	168	n.s.	1,458	1,337	+9.0%
税引前利益	2,230	2,529	-11.8%	2,671	-16.5%	9,822	11,394	-13.8%
法人税	-558	-582	-4.1%	-692	-19.4%	-2,407	-2,811	-14.4%
少数株主帰属純利益	-80	-98	-18.4%	-85	-5.9%	-348	-410	-15.1%
株主帰属純利益	1,592	1,849	-13.9%	1,894	-15.9%	7,067	8,173	-13.5%
コストインカム率	69.8%	70.9%	-1.1 pt	65.6%	+4.2 pt	68.2%	70.3%	-2.1 pt

BNPパリバの2020年度第4四半期および2020年度通期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類 (universal registration document) を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



## 2020年度第4四半期－コア事業別業績

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	3,838	3,915	3,315	11,068	-241	10,827
対前年同期比	-1.3%	-10.8%	+6.9%	-2.7%	n.s.	-4.5%
対前四半期比	+2.8%	-0.7%	-1.7%	+0.2%	+46.1%	-0.5%
営業費用および減価償却費	-2,534	-2,555	-2,190	-7,279	-283	-7,562
対前年同期比	-1.0%	-5.9%	-1.8%	-3.0%	-46.5%	-5.9%
対前四半期比	+2.5%	+7.3%	+3.5%	+4.4%	+71.4%	+6.0%
営業総利益	1,304	1,360	1,125	3,789	-524	3,265
対前年同期比	-1.8%	-18.8%	+29.1%	-2.2%	-8.7%	-1.1%
対前四半期比	+3.3%	-12.9%	-10.4%	-7.1%	+58.7%	-12.9%
リスク費用	-459	-678	-432	-1,570	-29	-1,599
対前年同期比	+82.4%	+18.1%	n.s.	+73.3%	-51.1%	+65.5%
対前四半期比	+32.6%	+14.6%	+39.5%	+25.8%	n.s.	+28.4%
営業利益	845	682	692	2,219	-554	1,666
対前年同期比	-21.5%	-38.1%	-12.5%	-25.3%	-12.7%	-28.6%
対前四半期比	-7.8%	-29.6%	-26.8%	-21.6%	+69.2%	-33.4%
持分法適用会社投資損益	1	56	8	64	4	68
その他の営業外項目	44	22	9	75	421	496
税引前利益	890	759	710	2,359	-129	2,230
対前年同期比	-18.0%	-36.8%	-11.4%	-23.6%	-76.8%	-11.8%
対前四半期比	-3.7%	-28.8%	-25.7%	-19.9%	-53.1%	-16.5%

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	3,838	3,915	3,315	11,068	-241	10,827
前年同期	3,887	4,391	3,101	11,378	-45	11,333
前四半期	3,735	3,943	3,372	11,050	-165	10,885
営業費用および減価償却費	-2,534	-2,555	-2,190	-7,279	-283	-7,562
前年同期	-2,559	-2,715	-2,229	-7,503	-529	-8,032
前四半期	-2,473	-2,382	-2,117	-6,972	-165	-7,137
営業総利益	1,304	1,360	1,125	3,789	-524	3,265
前年同期	1,328	1,675	871	3,875	-574	3,301
前四半期	1,262	1,561	1,255	4,078	-330	3,748
リスク費用	-459	-678	-432	-1,570	-29	-1,599
前年同期	-252	-574	-80	-906	-60	-966
前四半期	-346	-592	-310	-1,248	3	-1,245
営業利益	845	682	692	2,219	-554	1,666
前年同期	1,077	1,101	791	2,969	-634	2,335
前四半期	916	969	945	2,830	-327	2,503
持分法適用会社投資損益	1	56	8	64	4	68
前年同期	4	107	4	115	14	129
前四半期	4	107	3	114	16	130
その他の営業外項目	44	22	9	75	421	496
前年同期	4	-8	6	3	62	65
前四半期	4	-9	7	2	36	38
税引前利益	890	759	710	2,359	-129	2,230
前年同期	1,085	1,201	801	3,087	-558	2,529
前四半期	924	1,067	955	2,947	-276	2,671
法人税						-558
少数株主帰属純利益						-80
株主帰属純利益						1,592



## 2020年度通期 – コア事業別業績

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
<b>営業収益</b>	<b>14,932</b>	<b>15,938</b>	<b>13,763</b>	<b>44,633</b>	<b>-358</b>	<b>44,275</b>
対前年度比	- 2.2%	- 7.2%	+13.9%	+0.2%	n.s.	- 0.7%
営業費用および減価償却費	-10,267	-10,117	-8,920	-29,304	-890	-30,194
対前年度比	- 1.6%	- 3.7%	+3.0%	- 1.0%	- 48.5%	- 3.6%
<b>営業総利益</b>	<b>4,665</b>	<b>5,821</b>	<b>4,843</b>	<b>15,329</b>	<b>-1,249</b>	<b>14,081</b>
対前年度比	- 3.3%	- 12.8%	+41.7%	+2.8%	- 24.6%	+6.2%
リスク費用	-1,446	-2,775	-1,424	-5,645	-72	-5,717
対前年度比	+42.3%	+45.2%	n.s.	+79.5%	+23.0%	+78.5%
<b>営業利益</b>	<b>3,219</b>	<b>3,046</b>	<b>3,419</b>	<b>9,684</b>	<b>-1,321</b>	<b>8,364</b>
対前年度比	- 15.4%	- 36.1%	+6.9%	- 17.7%	- 23.0%	- 16.8%
持分法適用会社投資損益	5	353	11	369	54	423
その他の営業外項目	50	22	24	96	939	1,035
<b>税引前利益</b>	<b>3,274</b>	<b>3,421</b>	<b>3,454</b>	<b>10,149</b>	<b>-327</b>	<b>9,822</b>
対前年度比	- 14.1%	- 34.5%	+7.7%	- 17.1%	- 61.5%	- 13.8%
法人税						-2,407
少数株主帰属純利益						-348
<b>株主帰属純利益</b>						<b>7,067</b>

## 連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
<b>グループ</b>								
営業収益	10,827	10,885	11,675	10,888	11,333	10,896	11,224	11,144
営業費用および減価償却費	-7,562	-7,137	-7,338	-8,157	-8,032	-7,421	-7,435	-8,449
営業総利益	3,265	3,748	4,337	2,731	3,301	3,475	3,789	2,695
リスク費用	-1,599	-1,245	-1,447	-1,426	-966	-847	-621	-769
営業利益	1,666	2,503	2,890	1,305	2,335	2,628	3,168	1,926
持分法適用会社投資損益	68	130	130	95	129	143	180	134
その他の営業外項目	496	38	106	395	65	34	29	623
税引前利益	2,230	2,671	3,126	1,795	2,529	2,805	3,377	2,683
法人税	-558	-692	-746	-411	-582	-767	-795	-667
少数株主帰属純利益	-80	-85	-81	-102	-98	-100	-114	-98
株主帰属純利益	1,592	1,894	2,299	1,282	1,849	1,938	2,468	1,918
コスト/インカム率	69.8%	65.6%	62.9%	74.9%	70.9%	68.1%	66.2%	75.8%





(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業 PEL/CELの影響を除く								
営業収益	7,753	7,677	7,615	7,823	8,286	8,006	8,045	8,096
営業費用および減価償却費	-5,089	-4,855	-4,790	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,664	2,822	2,825	2,172	3,012	2,922	3,042	2,510
リスク費用	-1,137	-938	-1,095	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,527	1,883	1,730	1,122	2,187	2,158	2,439	1,777
持分法適用会社投資損益	56	111	116	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	66	-5	-2	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,649	1,990	1,845	1,208	2,294	2,280	2,563	1,886
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	55.3	55.6	55.8	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3
(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業								
営業収益	7,753	7,678	7,630	7,810	8,278	7,997	8,072	8,099
営業費用および減価償却費	-5,089	-4,855	-4,790	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,664	2,823	2,840	2,159	3,004	2,913	3,070	2,513
リスク費用	-1,137	-938	-1,095	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,527	1,885	1,745	1,109	2,178	2,148	2,467	1,780
持分法適用会社投資損益	56	111	116	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	66	-5	-2	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,649	1,991	1,859	1,195	2,286	2,270	2,591	1,889
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	55.3	55.6	55.8	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3
(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup> PEL/CELの影響を除く								
営業収益	3,976	3,867	3,721	3,913	4,036	3,892	3,925	3,961
営業費用および減価償却費	-2,610	-2,543	-2,446	-2,970	-2,635	-2,607	-2,516	-2,983
営業総利益	1,366	1,324	1,276	943	1,402	1,285	1,408	978
リスク費用	-458	-353	-331	-313	-254	-245	-214	-307
営業利益	908	971	944	630	1,147	1,040	1,194	671
持分法適用会社投資損益	1	4	1	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	45	4	1	1	4	2	-6	1
税引前利益	953	978	946	630	1,156	1,043	1,190	666
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-64	-56	-62	-56	-62	-67	-68	-58
国内市場部門税引前利益	890	922	884	574	1,093	975	1,122	608
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	26.2	26.3	26.1	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5
(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	3,838	3,735	3,602	3,757	3,887	3,748	3,810	3,816
営業費用および減価償却費	-2,534	-2,473	-2,376	-2,885	-2,559	-2,539	-2,443	-2,897
営業総利益	1,304	1,262	1,226	872	1,328	1,209	1,367	919
リスク費用	-459	-346	-329	-311	-252	-246	-213	-305
営業利益	845	916	897	561	1,077	963	1,154	615
持分法適用会社投資損益	1	4	1	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	44	4	1	0	4	2	-6	1
税引前利益	890	924	899	561	1,085	966	1,149	610
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	26.2	26.3	26.1	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup>								
営業収益	1,516	1,498	1,423	1,511	1,560	1,558	1,624	1,597
うち受取利息純額	855	853	788	810	881	891	916	915
うち手数料	661	645	634	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,126	-1,125	-1,074	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	390	373	349	345	408	396	522	412
リスク費用	-169	-137	-90	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	221	236	259	244	310	320	440	340
営業外項目	40	-2	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	261	235	259	244	316	320	440	340
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-36	-30	-33	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	225	205	226	209	283	281	402	306
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	11.0	11.0	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup> PEL/CELの影響を除く								
営業収益	1,516	1,496	1,408	1,524	1,569	1,568	1,596	1,595
うち受取利息純額	855	852	774	823	889	901	889	912
うち手数料	661	645	634	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,126	-1,125	-1,074	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	390	371	334	358	417	405	495	409
リスク費用	-169	-137	-90	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	221	235	244	257	318	330	412	337
営業外項目	40	-2	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	261	233	245	257	324	330	412	338
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-36	-30	-33	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	225	203	212	222	292	290	374	304
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	11.0	11.0	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	1,446	1,430	1,354	1,437	1,489	1,490	1,549	1,522
営業費用および減価償却費	-1,091	-1,093	-1,040	-1,129	-1,116	-1,133	-1,065	-1,147
営業総利益	355	337	314	308	373	357	484	376
リスク費用	-170	-130	-88	-99	-96	-77	-81	-70
営業利益	185	207	226	209	277	281	402	305
営業外項目	40	-2	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	225	205	226	209	283	281	402	306
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	11.0	11.0	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

#### 1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

PEL/CELに係る引当金に関する留意事項: 当該引当金は、フランス国内リテール・バンキング事業収益において計上されているが、住宅財形貯蓄制度 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅財形貯蓄口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から全存続期間にわたり生じるリスクを考慮している。

(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
PEL-CELの影響	0	1	15	-13	-9	-10	28	2



(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup>								
営業収益	694	669	649	659	755	663	684	675
営業費用および減価償却費	-434	-426	-422	-465	-450	-446	-433	-470
営業総利益	260	244	227	194	305	217	251	205
リスク費用	-161	-122	-122	-120	-109	-109	-107	-165
営業利益	99	122	105	74	196	108	144	40
営業外項目	0	0	-2	0	-4	0	0	0
税引前利益	99	122	104	73	191	108	144	40
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-9	-7	-9	-10	-10	-10	-11	-10
BNLバンカ・コメルシアーレ税引前利益	90	115	95	64	181	98	133	30
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	672	649	629	637	732	641	663	654
営業費用および減価償却費	-421	-413	-410	-453	-438	-434	-422	-460
営業総利益	251	236	218	184	295	207	241	195
リスク費用	-161	-121	-122	-120	-109	-109	-108	-164
営業利益	90	115	96	64	186	98	133	30
営業外項目	0	0	-2	0	-4	0	0	0
税引前利益	90	115	95	64	181	98	133	30
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
ベルギー国内リテール・バンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup>								
営業収益	861	851	835	885	878	853	878	915
営業費用および減価償却費	-556	-523	-499	-830	-560	-541	-535	-844
営業総利益	305	329	336	55	318	312	342	71
リスク費用	-67	-29	-80	-54	-5	-20	3	-34
営業利益	238	300	256	0	313	292	345	37
持分法適用会社投資損益	4	7	4	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	6	4	2	1	2	1	-6	0
税引前利益	247	311	262	5	321	298	344	35
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-17	-18	-19	-10	-19	-17	-19	-14
ベルギー国内リテール・バンキング税引前利益	230	293	243	-4	302	281	325	21
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8
ベルギー国内リテール・バンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	820	811	794	842	836	813	836	868
営業費用および減価償却費	-532	-501	-477	-797	-536	-519	-512	-811
営業総利益	288	310	317	45	300	295	323	57
リスク費用	-68	-28	-79	-54	-5	-20	3	-33
営業利益	221	282	237	-9	294	275	326	24
持分法適用会社投資損益	4	7	4	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	6	4	2	1	2	1	-6	0
税引前利益	230	293	243	-4	302	281	325	21
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.4	5.5	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門 (ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup>								
営業収益	905	850	829	845	834	807	767	776
営業費用および減価償却費	-494	-469	-451	-508	-473	-457	-447	-483
営業総利益	411	380	378	337	362	351	320	292
リスク費用	-61	-66	-40	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	350	314	339	299	320	310	293	256
持分法適用会社投資損益	-3	-2	-3	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	-1	0	0	0	0	1	0	0
税引前利益	346	312	336	295	318	307	290	253
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	-2	-1	-1	-1	0
その他国内市場部門税引前利益	345	311	335	293	318	306	289	253
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門 (ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	900	846	825	841	830	804	763	772
営業費用および減価償却費	-491	-466	-448	-505	-469	-454	-444	-480
営業総利益	409	379	377	335	361	350	319	292
リスク費用	-60	-66	-40	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	349	313	337	297	319	309	292	255
持分法適用会社投資損益	-3	-2	-3	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	-1	0	0	0	0	1	0	0
税引前利益	345	311	335	293	318	306	289	253
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む





(単位: 百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
<b>国際金融サービス部門</b>								
営業収益	3,915	3,943	4,027	4,053	4,391	4,248	4,262	4,282
営業費用および減価償却費	-2,555	-2,382	-2,414	-2,766	-2,715	-2,545	-2,559	-2,688
<b>営業総利益</b>	<b>1,360</b>	<b>1,561</b>	<b>1,613</b>	<b>1,287</b>	<b>1,675</b>	<b>1,704</b>	<b>1,703</b>	<b>1,594</b>
リスク費用	-678	-592	-765	-739	-574	-518	-390	-428
<b>営業利益</b>	<b>682</b>	<b>969</b>	<b>848</b>	<b>548</b>	<b>1,101</b>	<b>1,186</b>	<b>1,313</b>	<b>1,165</b>
持分法適用会社投資損益	56	107	116	75	107	118	149	113
その他の営業外項目	22	-9	-3	12	-8	1	-21	0
<b>税引前利益</b>	<b>759</b>	<b>1,067</b>	<b>960</b>	<b>634</b>	<b>1,201</b>	<b>1,305</b>	<b>1,442</b>	<b>1,279</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	29.2	29.3	29.8	29.8	29.2	29.1	28.9	28.8
<b>パーソナル・ファイナンス</b>								
営業収益	1,365	1,343	1,302	1,475	1,485	1,444	1,440	1,427
営業費用および減価償却費	-687	-641	-641	-787	-721	-664	-702	-770
<b>営業総利益</b>	<b>678</b>	<b>703</b>	<b>661</b>	<b>688</b>	<b>764</b>	<b>781</b>	<b>738</b>	<b>656</b>
リスク費用	-581	-383	-450	-582	-370	-366	-289	-329
<b>営業利益</b>	<b>97</b>	<b>320</b>	<b>211</b>	<b>105</b>	<b>394</b>	<b>415</b>	<b>449</b>	<b>327</b>
持分法適用会社投資損益	-4	7	-5	8	-9	19	17	13
その他の営業外項目	-60	-11	4	0	-11	0	-13	0
<b>税引前利益</b>	<b>33</b>	<b>315</b>	<b>210</b>	<b>113</b>	<b>374</b>	<b>434</b>	<b>454</b>	<b>340</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.9	8.0	8.1	8.1	7.9	8.0	7.9	7.8
<b>欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの100%を含む)<sup>1</sup></b>								
営業収益	527	561	609	665	702	657	674	665
営業費用および減価償却費	-402	-405	-414	-490	-459	-439	-445	-456
<b>営業総利益</b>	<b>125</b>	<b>156</b>	<b>196</b>	<b>175</b>	<b>243</b>	<b>218</b>	<b>230</b>	<b>210</b>
リスク費用	-95	-113	-143	-86	-113	-112	-97	-77
<b>営業利益</b>	<b>30</b>	<b>43</b>	<b>53</b>	<b>89</b>	<b>129</b>	<b>107</b>	<b>132</b>	<b>133</b>
持分法適用会社投資損益	33	52	53	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	18	-1	-25	3	8	-1	0	0
<b>税引前利益</b>	<b>80</b>	<b>93</b>	<b>80</b>	<b>147</b>	<b>198</b>	<b>150</b>	<b>198</b>	<b>186</b>
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-2	-2	-1	-3	-1	-1	-1	-1
<b>欧州・地中海沿岸諸国部門税引前利益</b>	<b>78</b>	<b>91</b>	<b>79</b>	<b>144</b>	<b>197</b>	<b>150</b>	<b>197</b>	<b>185</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.1	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
<b>欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの2/3を含む)</b>								
営業収益	523	557	606	660	699	655	672	663
営業費用および減価償却費	-401	-403	-411	-488	-458	-438	-444	-455
<b>営業総利益</b>	<b>122</b>	<b>154</b>	<b>194</b>	<b>172</b>	<b>241</b>	<b>217</b>	<b>228</b>	<b>209</b>
リスク費用	-95	-113	-143	-86	-113	-111	-97	-77
<b>営業利益</b>	<b>28</b>	<b>41</b>	<b>51</b>	<b>86</b>	<b>128</b>	<b>106</b>	<b>131</b>	<b>132</b>
持分法適用会社投資損益	33	52	53	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	18	-1	-25	3	8	-1	0	0
<b>税引前利益</b>	<b>78</b>	<b>91</b>	<b>79</b>	<b>144</b>	<b>197</b>	<b>150</b>	<b>197</b>	<b>185</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.1	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) <sup>1</sup>								
営業収益	594	627	629	611	611	601	593	569
営業費用および減価償却費	-423	-403	-432	-465	-406	-433	-431	-442
営業総利益	171	224	197	146	205	168	162	127
リスク費用	-3	-90	-167	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	168	134	30	83	121	125	160	109
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の営業外項目	0	2	-3	0	-5	1	1	0
税引前利益	168	136	27	83	116	126	161	109
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-6	-6	-5	-5	-6	-7	-7	-8
NRBI	162	130	22	78	110	119	153	101
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.5	5.6	5.7	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	578	612	614	596	595	585	576	553
営業費用および減価償却費	-413	-394	-422	-455	-396	-423	-421	-433
営業総利益	165	218	192	141	199	161	155	119
リスク費用	-3	-90	-167	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	162	128	25	78	115	118	152	101
営業外項目	0	2	-3	0	-5	1	1	0
税引前利益	162	130	22	78	110	119	153	101
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.5	5.6	5.7	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
保険部門								
営業収益	622	697	828	579	654	761	779	874
営業費用および減価償却費	-385	-347	-339	-393	-380	-370	-360	-389
営業総利益	237	350	489	186	274	390	419	484
リスク費用	0	0	-2	1	-1	-2	1	-2
営業利益	237	350	487	187	273	389	420	482
持分法適用会社投資損益	16	35	39	1	30	43	57	37
その他の営業外項目	0	0	21	9	0	0	-16	0
税引前利益	253	384	548	197	304	432	461	520
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.6	8.6	8.5	8.6	8.4	8.4	8.3	8.4
(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ウェルス&アセット・マネジメント部門								
営業収益	826	734	678	743	957	803	795	766
営業費用および減価償却費	-669	-598	-601	-642	-760	-649	-632	-641
営業総利益	157	136	77	101	197	154	163	125
リスク費用	1	-6	-4	-9	-6	4	-2	-2
営業利益	159	130	74	92	191	157	161	123
持分法適用会社投資損益	11	14	28	11	25	12	10	10
その他の営業外項目	63	1	0	0	-1	0	7	0
税引前利益	233	146	102	102	216	170	177	132
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	2.0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
<b>ホールセールバンキング部門</b>								
営業収益	3,315	3,372	4,123	2,953	3,101	2,873	3,099	3,008
営業費用および減価償却費	-2,190	-2,117	-2,220	-2,393	-2,229	-1,974	-1,997	-2,463
<b>営業総利益</b>	<b>1,125</b>	<b>1,255</b>	<b>1,904</b>	<b>560</b>	<b>871</b>	<b>898</b>	<b>1,102</b>	<b>545</b>
リスク費用	-432	-310	-319	-363	-80	-81	-24	-32
<b>営業利益</b>	<b>692</b>	<b>945</b>	<b>1,585</b>	<b>197</b>	<b>791</b>	<b>817</b>	<b>1,078</b>	<b>513</b>
持分法適用会社投資損益	8	3	-3	3	4	5	5	2
その他の営業外項目	9	7	6	2	6	11	-25	-2
<b>税引前利益</b>	<b>710</b>	<b>955</b>	<b>1,587</b>	<b>202</b>	<b>801</b>	<b>834</b>	<b>1,058</b>	<b>514</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	24.5	24.7	24.3	22.3	21.7	21.6	21.3	20.7
<b>コーポレートバンキング部門</b>								
営業収益	1,281	1,118	1,258	1,070	1,210	1,039	1,094	969
営業費用および減価償却費	-645	-598	-632	-748	-668	-600	-607	-724
<b>営業総利益</b>	<b>636</b>	<b>520</b>	<b>627</b>	<b>321</b>	<b>541</b>	<b>440</b>	<b>487</b>	<b>245</b>
リスク費用	-430	-311	-366	-201	-80	-88	-21	-35
<b>営業利益</b>	<b>206</b>	<b>209</b>	<b>261</b>	<b>121</b>	<b>461</b>	<b>352</b>	<b>467</b>	<b>210</b>
営業外項目	6	2	-2	3	3	4	3	3
<b>税引前利益</b>	<b>212</b>	<b>211</b>	<b>259</b>	<b>124</b>	<b>464</b>	<b>356</b>	<b>470</b>	<b>213</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	13.5	13.6	13.6	13.0	12.5	12.5	12.4	12.2
<b>グローバル・マーケット部門</b>								
営業収益	1,498	1,711	2,304	1,306	1,340	1,299	1,409	1,523
うちFICC	1,002	1,245	2,013	1,392	820	915	793	1,035
うち株式およびプライムサービス	497	466	290	-87	520	384	615	488
営業費用および減価償却費	-1,089	-1,065	-1,137	-1,162	-1,117	-926	-913	-1,276
<b>営業総利益</b>	<b>410</b>	<b>646</b>	<b>1,167</b>	<b>143</b>	<b>223</b>	<b>373</b>	<b>496</b>	<b>248</b>
リスク費用	-2	1	45	-161	0	4	-6	3
<b>営業利益</b>	<b>407</b>	<b>647</b>	<b>1,212</b>	<b>-17</b>	<b>222</b>	<b>377</b>	<b>491</b>	<b>251</b>
持分法適用会社投資損益	2	0	-2	1	0	1	1	0
その他の営業外項目	0	0	3	0	6	9	-25	1
<b>税引前利益</b>	<b>409</b>	<b>648</b>	<b>1,214</b>	<b>-17</b>	<b>229</b>	<b>387</b>	<b>467</b>	<b>252</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	10.0	10.1	9.8	8.4	8.3	8.1	8.0	7.7
<b>証券管理部門</b>								
営業収益	536	544	561	577	551	535	596	516
営業費用および減価償却費	-457	-454	-451	-482	-444	-449	-477	-463
<b>営業総利益</b>	<b>79</b>	<b>89</b>	<b>109</b>	<b>95</b>	<b>107</b>	<b>86</b>	<b>119</b>	<b>53</b>
リスク費用	1	0	2	-2	0	2	2	-1
<b>営業利益</b>	<b>79</b>	<b>89</b>	<b>111</b>	<b>93</b>	<b>108</b>	<b>88</b>	<b>121</b>	<b>52</b>
営業外項目	9	7	3	2	0	2	0	-3
<b>税引前利益</b>	<b>89</b>	<b>96</b>	<b>114</b>	<b>95</b>	<b>108</b>	<b>91</b>	<b>121</b>	<b>50</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)

	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
コーポレート・センター								
営業収益	-241	-165	-78	126	-45	27	53	37
営業費用および減価償却費	-283	-165	-329	-114	-529	-363	-436	-400
営業総利益	-524	-330	-406	12	-574	-336	-383	-363
リスク費用	-29	3	-33	-13	-60	-1	7	-4
営業利益	-554	-327	-439	-1	-634	-337	-377	-367
持分法適用会社投資損益	4	16	17	18	14	19	24	24
その他の営業外項目	421	36	102	381	62	20	81	623
税引前利益	-129	-276	-320	398	-558	-299	-272	280





**代替的業績指標 (Alternative Performance Measures: APM)**  
**フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第223-1条に基づく開示**

代替的業績指標	定義	使用理由
<b>事業部門損益計算書 (P/L)</b> (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の損益計算書の合計 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む) BNPパリバ・グループ損益計算書 =事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 グループ全体の損益計算書との関係は「コア事業別業績」の表で開示	BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標
<b>PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計</b> (各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益計算書の合計を表す指標
<b>プライベート・バンキングの100%を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計</b>	プライベート・バンキング全体の損益を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	リテール・バンキング事業の業績を示す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテール・バンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合にもとづきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)
<b>営業費用の変化 (IFRIC 21を除外後)</b>	IFRIC 21に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC 21に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わるほぼ全額を第1四半期に計上するが、その影響を排除した上で当事業年度の営業費用の推移を表す指標
<b>コスト/インカム率</b>	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
<b>リスク費用÷期首顧客向け融資残高</b> (単位: bp)	リスク費用 (単位: 百万ユーロ) を期首の顧客向け融資残高で除したものの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「融資残高に関わるリスク費用」で開示	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
<b>不良債権カバー率</b>	金融資産 (ステージ3) の引当金と当該資産 (ステージ3) の減損後残高との関係を表す指標。 対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む (保険事業を除く)	不良債権に対する引当の状況を表す指標
<b>一時項目を除く株主帰属純利益</b>	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業変革費用がある
<b>自己資本利益率 (ROE)</b>	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
<b>有形自己資本利益率 (ROTE)</b>	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標



## 比較分析 – 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。

事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。

連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

### 注：

**営業費用：**従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

**事業部門：**以下の3部門から成る。

- 国内市場部門：フランス国内リテール・バンキング（FRB）、BNLバンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）を含む）
- 国際金融サービス部門（IFS）：欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険部門、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAMには、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- ホールセールバンキング部門（CIB）：コーポレートバンキング部門、グローバル・マーケット部門、証券管理部門を含む

経済に資する結集力 .....	2
健康危機の状況下で底堅い決算を実現—ジョーズ効果はポジティブ .....	3
リテール・バンキング&サービス事業 .....	6
国内市場部門 .....	6
国際金融サービス部門 .....	11
ホールセールバンキング (CIB) .....	17
コーポレート・センター .....	20
財務構造 .....	21
2021年度の方向 .....	22
連結損益計算書 .....	25
2020年度第4四半期—コア事業別業績 .....	26
2020年度通期—コア事業別業績 .....	27
連結四半期業績の推移 .....	28
代替的業績指標 (Alternative Performance Measures: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則 第223-1条に基づく開示 .....	37

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくはBNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化（世界的には特に新型コロナウイルスのパンデミック関連）、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process : SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。



## **Investor Relations & Financial Information**

**Chrystelle Renaud +33 (0)1 42 98 46 45**

**Lisa Bugat +33 (0)1 42 98 23 40**

**Didier Leblanc +33 (0)1 42 98 43 13**

**Philippe Regli +33 (0)1 43 16 94 89**

---

## **Debt Investor Relation Officer**

**Claire Sineux +33 (0)1 42 98 31 99**

---

**E-mail: [investor.relations@bnpparibas.com](mailto:investor.relations@bnpparibas.com)**

**<https://invest.bnpparibas.com>**



**BNP PARIBAS**

**The bank  
for a changing  
world**